

梶谷城(別名無)(県史跡)(長崎県松浦市今福町東免字城山)

梶谷城(かじやじょう)は、かつて肥前国松浦郡今福(現長崎県松浦市今福町東免)にあった城である。

概要

松浦市今福の集落から北東方向にある城山(じょうやま、標高 197 メートル)の山頂部に築かれた山城。本丸跡からは玄界灘から伊万里湾まで一望できる。

城跡は「松浦党梶谷城跡」として長崎県史跡に指定されている。

歴史

松浦党を率いた松浦氏の祖源久が築城者とされている。松浦氏に伝わる「松浦家世伝」によれば、1069 年(延久元年)に久が京都より松浦郡に下向してきた際に築城されたと伝えられる。このほか、1095 年(嘉保 2 年)あるいは 1145 年(久安元年)等築城年代には異説があるが、少なくとも平安時代末期に築城されてその後長期間にわたり使用されたものと考えられている。

城郭

城山の山頂部分を削って本丸が作られ、南側に物見台、北側に二の丸が置かれた。遺構としては櫓台や井戸の跡、野面積みの石垣等がある。山の西麓には「千人枡」と称される居館跡があり、石壁・石塁・門等が残されている。

Wikipedia による

通説では平安末期以降、九州西北部一帯に割拠し一族共同体を形成していた「松浦党」の太祖、源久が延久元年(1069 年)に今福町の「ぎぎが浜」に下向し、築城をしたのがこの城だと言われており、本丸(主郭)、二の丸を持つ日本最古の近代城郭のひとつです。

本丸(主郭)の石垣は高さ 3 メートル弱ほどで、東西 50 メートル、南北 200 メートル近くあり、南寄りに天守台跡とみられる一段高い部分があります。戦国期まで断続的に使われた結果、曲輪の形態は梯郭式に近く、本丸(主郭)には東西に 2 基の櫓(やぐら)台と、本丸(主郭)大手門部分には未完成ながら柵型(ますがた)曲輪(くるわ)を備えています。

本丸(主郭)より一回り狭い二の丸は、石垣の風化が激しく車道の造成などでその形がわかりにくくなっています。二の丸虎口から本丸(主郭)大手門付近、西側櫓跡の付近が最大の見所です。

また、一の門があったところは現在駐車場になっており、一部空堀り跡が残っています。松浦党は世界史上、西のバイキングに対する東の「倭寇」としてその中心的役割を果たしたことで有名で、源久は宇野御厨検校、検非違使、従五位下の大府判官で、久安 4 年(1148 年)9 月 15 日に 85 歳で亡くなり、その墓は城主の菩提寺である今福町の宛陵寺にあります。

(注釈) 史実によると源久が実在の人物であったことは確かなようです。しかし嵯峨天皇第十六王子左大臣源融の裔・渡辺綱の嫡子であったことは、地元ではまだ確認されていません。

また、一般的には最も外側の門を大手門と呼びますが、現地で本丸(主郭)の門に「大手門跡」という表示があるため、これを使用しています。

「松浦の民話」サイトによる

